



東京立川ロータリークラブ

2019.3.15 第2831回 例会

Weekly Report



【司会進行】

SAA委員会 織原寛一郎委員長

【開会点鐘】 清水淳一会長

【ロータリーソング斉唱】

『四つのテスト』

【お客様の紹介】 清水淳一会長

【会長挨拶】 清水淳一会長

【お客様挨拶】

【幹事報告】 平井洋孝幹事

【ニコニコ発表】

親睦委員会 安藤永一副委員長

【出席率の発表】

出席委員会 渡辺博昭委員

会 員 数	112名
出席義務会員	102名
出席免除会員	10名
当日出席者	86名
出席免除会員の当日出席者	5名
出席率	80.37%
3月8日の出席率	83.96% → 94.39%

【卓話】 元海上自衛隊 海将
金沢工業大学虎ノ門大学院教授
伊藤俊幸様

【閉会点鐘】 清水淳一会長

【会長挨拶】 清水淳一会長

先だっの東京国立ロータリークラブの創立50周年式典にご参加の皆様、お疲れ様でした。昨日はホワイトデーでしたが、皆様バレンタインデーで戴いたチョコレートのお返しで忙しかったのではないのでしょうか。さて、3月14日といますと奈良の東大寺での「お水取り」が終了する日です。「お水取り」は毎年3月、境内にある「二月堂」という国宝のお堂で営まれる法要のことだそうです。752年の奈良時代に東大寺を開いた良弁(ろうべん)の弟子である実忠(じっちゅう)が始めたとされ、以来一度も途切れずに続いているそうです。正式には「修二会(しゅにえ)」といい、旧暦2月に営まれる法要で「練行衆(れんぎょうしゅう)」と呼ばれる東大寺や同じ華嚴宗(けごんしゅう)の末寺(まつじ)から選ばれた、11人のお坊さんが俗世間から離れて集団生活を送り、2月20日からの前行、3月1日～14日までの本行と1日に6度、約3週間祈りを繰り返し、本行の間、食事は1日に1度しかとらないそうです。本行の終わり頃に二月堂近くの井戸から水を汲み上げる儀式から、東大寺での通称が「お水取り」だそうです。本尊の十一面観音菩薩の前で「度を過ぎる」例えば「電気や水道を使いすぎているか」という身近なことから、戦争や自然破壊にまで思いをはしらせ悔い改める懺悔や、新しい年の天下泰平、五穀豊穡を祈るそうです。また、本行中毎晩、童子(どうじ)と呼ばれる付き人が、松明で練行衆を二月堂まで導いていき、童子はその後お堂の舞台から松明を突出して走り、夜の二月堂に大きな松明の火が灯されるのは有名です。我々も毎日どのように過ごしたか懺悔をし、世界平和を祈ることが真のロータリアンになる第一歩かと思ひます。私も今晩から毎晩、寝る前に祈ることを心掛けます。



清水淳一会長

【お客様の紹介】 清水淳一会長

戸田雅彦様((株)SHOEI 代表取締役)

橋田数彦様(東京小金井さくらロータリークラブ)

上野要平様(国際ロータリー第2750地区東京日野ローターアクトクラブ地区ローターアクト代表)

【卓話講師】伊藤俊幸様(元海上自衛隊 海将 金沢工業大学虎ノ門大学院教授)

2018～2019年度 RIテーマ

2018～2019年度
国際ロータリー会長
バリー・ラシン



2018～2019年度 クラブテーマ

「一期一会
ロータリー」

東京立川ロータリークラブ
会長 清水淳一



司会進行
織原寛一郎委員長



ニコニコ発表
安藤永一副委員長



出席率の発表
渡辺博昭委員



例会時には必ずバッジをつけましょう

【お客様挨拶】

上野要平様

(国際ロータリー第2750地区東京日野ローターアクトクラブ地区ローターアクト代表)

ちょうど昨日、ガバナー事務所から事務局様へ連絡があったかと思いますが、来る5月18日土曜日、六本木ヒルズにてローターアクトの年次大会を開催させていただきます。昨年は初代代表の岡部直土先輩にご登壇頂きました。その際多くの立川ロータリークラブの皆様にもご参加頂きまして、誠に有難うございました。ローターアクトは18才から30才までの青年組織として、奉仕を通じた親睦をテーマに日々活動しております。ゆくゆくは自分達もロータリアンになって、恩返しができるように努力して参ります。どうか引き続きのご支援を宜しくお願い申し上げます。有難うございました。



【幹事報告】 平井洋孝幹事

●ガバナー月信3月号・ハイライト米山を各テーブルに配布。●親睦委員会炉辺会が12日パレスホテル瑞燐にて開催。●13日、東京国立ロータリークラブ創立50周年式典開催。●3月22日(金)の例会、食事は12時からの着席順。



【ニコニコ発表】 親睦委員会 安藤永一副委員長

●清水淳一会長 卓話の講師でいらっしゃいます、元海上自衛隊海将、金沢工業大学虎ノ門大学院教授 伊藤俊幸様、お忙しい中お越し頂き有難うございます。卓話楽しみにしております。国際ロータリー第2750地区東京日野ローターアクトクラブ地区ローターアクト代表、上野要平様のご訪問歓迎致します。どうぞ最後まで楽しんでいってください。東京国立ロータリークラブの創立30周年記念式典にご参加の皆様、お疲れ様でした。来月は東京昭島ローターアクトクラブの創立30周年の記念式典があります。宜しくお願い致します。

●平井洋孝幹事 金沢工業大学虎ノ門大学院教授 伊藤俊幸様、卓話楽しみにしております。宜しくお願い致します。国際ロータリー第2750地区東京日野ローターアクトクラブ地区ローターアクト代表、上野要平様の来訪を歓迎致します。

●伊藤平八朗さん 海軍中将伊藤俊幸閣下の御来訪を歓迎致します。

●中島孝昌さん 上野要平様のご来訪を歓迎致します。

●田島瑞也さん 遅ればせ乍ら、家内への『誕生月』お祝い!!誠に有難うございました。

本日合計 21,000円 本年度累計 2,257,000円

卓話「海上自衛隊式最強リーダーシップ」

元海上自衛隊 海将、金沢工業大学虎ノ門大学院教授 伊藤俊幸様

只今、伊藤平八朗様から過分なご紹介を頂きましたが、昔でいう所の海軍中将という配置でございました。当時の大将は現在の海上幕僚長であり、統合幕僚長と合わせた2名だけが、いわゆる大将と呼ばれておりました。後は15名の中将(海将)、その他合わせて約45,000名からなる組織で

ございます。自身の最終配置は呉でしたので、管轄が東は和歌山から西は九州大分・宮崎までの12府県、この知事がカウンターパートであり、各県の商工会会頭が防衛協会の会長も兼任されておりましたので、親しく飲みニケーションさせて頂いておりました。朝鮮半島が騒がしくなるとテレビに呼ばれる事も多かったのですが、自身は特に朝鮮半島の専門家ではありませんでした。そこで感じたのは、テレビの解説員は事実に基づかない発言が多いという事です。ちなみに2017年にミサイルが多数飛び交った時期があったかと思いますが、今にもアメリカと戦争になるのではないかと感じたかもしれません。あれを大事に騒いでいたのは日本だけでした。欧米も含めて日本は何を言っているのだ、というのが研究者の見解でした。実際には250%ありえませんかと言ったところ、もう来なくて結構ですと言われました。はっきり申し上げると、煽らないと呼ばれないという事なのです。アメリカの特派員経験者にも周知の事実でありましたが、それを本人に聞くと、自身も社員であるという返答でした。真実を伝えるというよりも、会社の方針が先になってしまうのです。私は防衛大学でアメフトをしており、当時からの強豪日大とも対戦しました。当時は鬼の篠竹という名物監督がおられて、3年の時の対戦時に間違えてタッチダウンをしてしまいました。すると試合中にも関わらず相手の一軍は全て二軍に入れ替えられ、一軍は監督の前に整列させられ、端から殴られていました。しかしその試合は防大が大差で敗戦しました。そもそも日大のアメフトはそういう所なので、以前あった問題はルールを無視した犯罪行為だったという事です。通常は笛が鳴ったらその時点でプレーを止めなければならないので、それまでの間に司令塔であるクォーターバックを倒すという意味では、QBを潰せ、殺せというのは日常会話の範疇なのです。それを逸脱した行為で、監督は指示していないという事を主張して起訴はされませんでした。相手選手の親が訴えました。実際に言ったかどうかは分かりませんが、その様な指示を匂わせたのかも知れません。しかしコーチ等が指摘として、指揮官に進言できる者が居なかったのです。データ改ざん問題も大きく報道されていますが、同じような類のもので、専制型のリーダーシップが所謂日本の軍隊式であり、企業ではこの場合中間管理職が全てイエスマンになります。そして下の人間は違うと思いつつも行動してしまうという構図で、非常に危険であります。今の西洋の軍隊は違い、フォロワーシップ型いわゆるフォロワーが正しいリコメンドをするという事が主流なのです。日本では60数年前に防衛大学が出来ましたが、これは吉田茂が帝国陸海軍の反省を踏まえて、二度と駄目な組織を作ってはならないという考えの上で出来たのです。ですので、昭和の軍隊は間違っており、明治までの軍隊と明らかに違っていました。明治までは捕虜の扱いもきちんとしておりましたが、昭和



になって国際連盟からも脱退し、唯我独尊状態になったのです。関東軍が勝手に走り出し指示を聞かなくなった為に最終的に悲惨な結果となった訳で、あのような指揮官を作ってはならないという事で防衛大が出来ました。初代の榎校長は士官学校に勉強に行きましたが、そこで得たキーワードは「理性ある服従」なのです。これはただ命令を実行するのではなく、その命令を疑い、自身事に落とし込んだら自ら進んで実行します、という事なのです。これが正しいフォロワーシップだという事で、防衛大学で教育されるのです。アメリカの海軍士官学校の教科書には、「健全な懐疑主義」であれと書かれています。先日ノーベル医学賞の受賞者も「教科書は疑え」と言われておりましたが、あれこそが科学的思考なのです。何故そうなのか、から考える事が始まって科学的思考の中心となり、そこから真実を得るのです。言われた事だけするのではなく、まず疑うという事をしないと科学的思考にはならないのです。今の日本も実は危惧していますし、防衛大学もイエスマンの養成学校になってしまっているのではないかと危惧しております。先日レーダー照射問題があった際にテレビ出演いたしました、今韓国の状態がおかしくなっています。何故あのような問題が起こったのか、反日ではないのかと聞かれますが、一つ言える事は完全な紳士協定違反だという事で、腹が立ったからやったというレベルの話ではないのです。海軍士官たるもの海軍参謀長がサインしている文章内容を守る、という大前提において違反をしているので、単に艦長が暴走したという事なのです。疑いを持たれるかもしれませんが、一般の会社においても、何故あの方が部長なのだとか言われるケースがあるかと思いますが、軍隊は年功序列ですので、能力の劣る者がその役に就く事もあるのです。ですからレーダー問題発生時に海軍参謀長は現場に激怒したのだと思います。実際1月7日に事件を起こした第一艦隊に行き、記事では激励したと書かれていますが、実際には怒鳴り上げたのだと思います。しかもそれをわざと報道させたのです。現状文政権へは役所がモノを言える状態ではないほど大統領は強権をもっているのです。文政権は積弊清算という方針を掲げて当選した大統領であるので、前政権以前は全て悪という判断で、自身が正しいとしているのです。元大統領が逮捕されたり、国防大臣も最高裁の裁判官も逮捕されたり、各役所に積弊清算委員会なるものからの使者が入り込んでいる状態なのです。これは恐らく、偏った思想を持った者が支配をしているのではないかと思います。現在韓国では保守系でもリベラルも派閥が二つに分かれてしまっている状態で、政権は3年で終わってしまい大統領が又逮捕され、死刑にさえなる可能性があるといった論評まであります。これに対して、レーダー照射の際の映像をご覧になった方も多いかと思いますが、極めて冷静に対処していた事がお分かり頂けたと思います。プロである我々は淡々粛々と対処をしているのです。またあの映像の中では幾つかの会話が交わされていたと思いますが、あれ

は全てクルーが話しており、機長が話しているのではありません。機長は手を上げて了解をしていただけです。自衛隊のやりとりは全てリコメンデーションであり、それに対して機長が判断しますので、機長は「了解」もしくは「待て」だけなのです。そしてナンバー2以下にしっかりと考えさせる、これが今、自身が大学院で教えているところのリーダーシップなのです。いわゆるフォロワーシップを中心としたリーダーシップで、これが軍隊での当たり前の姿なのです。海外でもこれが常識であり、アメリカでは核の管理をしている責任者も上長の判断がおかしいと考えた場合は、命令に服さないと発言していますし、現トランプ政権も幾度となく閣僚が変わっていますが、これはリコメンデーションからなのです。



必ず部下もリコメンデーションし、科学的思考によって何が真実かを突き止めるという事があるべき姿なのです。明仁親王殿下は、終戦直後に昭和天皇から手紙を受け取り、そこに先生とは違う事を書くと言った中で、今回の敗戦の要因は、国民が皇室を信じすぎた事、もう一つは軍隊が科学を忘れたと述べられています。今の企業でもここから分かる悪い実態が残っており、自身の保身に走りがちになっていますが、そうではなくしっかりリコメンデーション時には批判力も必要で、それが今日本に求められているのだと思います。何故なら一人一人のフォロワーが自ら主体的になって考える必要がある世の中だからです。です。優秀な若者はどんどん旧態依然の組織からは抜けていきます。そのまま組織に留まったら、現状の上司の姿が成れの果てだと思つと、絶望して辞めてしまうのです。実はゆとり世代は自分で考える事の出来る世代だと思っています。ただ問題なのはしっかりとしたベースが与えられていないという事で、「これをベースに考えなさい」といえば、自分達で考えるのです。これは大人がしっかりと与えてあげるべきなのです。地方の会社へ講演に行っても、若い世代の経営者はしっかりとメモを取って自分で考えていますが、翻つて年を召した老人は寝ていたりする。これでは会社が良くなる筈はありません。そしてこれを最初に行っているのは、実は軍事組織なのです。昔サンダーズ軍曹がいたコンバットという映画がありましたが、軍曹と若いヘンリー少尉が組んで戦いに勝っていくという内容のアメリカ映画です。この中では日

本の軍隊で重要な先任伍長制度に通ずるものがありました、分かりやすく言うと、会社で言えば経営者側に労働組合委員長を入れて一緒に経営するようなものです。何故そこまでするのかというと「運命共同体」だからなのです。自衛隊の比率でいうと、2割が幹部、8割が兵隊なのです。この兵隊のボスが部下に対して指示をはっきりすると、縦方向の命令に横方向の命令が加わるという事で、組織としてしっかり成り立つのです。そして艦長に対して若い頃から幹部が何故、こうしますという意思表示のリコメンドをするのかというと、それは艦長がいつまで生きているか分からないからなのです。そうなれば次席、三席、四席、海軍少尉までもが艦を指揮せねばなくなるから、自分の言葉ではっきりと意思表示しなければならないのですが、日本海軍はそうではありませんでした。しかし今の自衛隊はそのような教育をしています。また現在の日本では、イノベーションが起りにくくなっている事があります。それは積み上げ方式で物を考えるからです。ビジネスマネジメントの用語で言えば「フォワードキャストイング」と言いますが、このアプローチでは物事は動きません。間違いなくあれも駄目、これも駄目という否定的な考えが積み上げられて、思考停止に陥るからで、これはお役所仕事の発想に近いものがあります。しかし軍隊はそうではありません。護衛艦いずもの改修空母化についても様々な論評が出ているので、実際はどうなのかをお伝えしたいと思います。まず皆様もご存知の防衛大綱は、そもそも10年から15年先にどうなるかを見据えてバックキャストイングをし、現在から5～10年でどう作りこむかを考えているのが防衛大綱で、会社で言えばビジョンといったところです。これは経営戦略の立て方と同一で、軍事はこれが当たり前なのです。このように経営計画をしっかり立てられない企業では、当然イノベーションも起こりません。ですからいずもの空母化は、太平洋側の洋上にどのようにしたら防空網を掛けられるかという事なのです。10年後には中国が空母を4隻程度保有している状況になるので、要はその内1～2隻は日本列島の南の太平洋海上に存在しているという事なのです。つまりその付近には多数の戦闘機が飛んでいる可能性があるという事で、以前から制空権・制海権という言葉がありますが、現在は海上優勢・航空優勢と呼びますが、この確保をしないと日本が危険にさらされるのです。しかし現在航空機が飛び立てる滑走路を持った基地が太平洋側になく、すぐにそのような基地を建設できるかといえば、不可能です。ですので、垂直離着陸可能な航空機をストブル機といいますが、このF-35Bを導入配備する必要が出てきます。この戦闘機は洋上での運用が主体となります。という事は、操縦

する隊員の安全確保も必要になってくるのです。アメリカの海軍や空軍は、戦闘状態になる際安全確保の為洋上で万が一隊員がエスケイプした場合に、救助に行ける範囲でしか戦闘をしません。その代わりに映画プライベートライアンではありませんが、必ず命がけで救助するという事なのです。これと同様の発想で、隊員の洋上での安全確保の為にいずもを改修する、と防衛大綱の中の中期防(中期防衛力整備計画)にはっきり書かれています。ここを良く理解せずして、攻撃型空母に改修する計画だと批判する方もいますが、実態は全く違うという事をご理解頂けたらと思います。時に報道での議論は軸がはっきりしないまま話される事が多くあり、今なのか5年後の事なのか10年後の事なのか、有事の際の事なのか平時の際の事なのかが明確でないまま議論されてしまう事が多く、自身がメディア出演する際は必ずこの部分を整理して討論するようにしております。未来を想定して現在どのように対処するか、という視点が今の日本人の多くに欠如している事柄とも言えます。経営の際も是非このような思考から計画を立てられる事をお勧め致します。年配者に未来は作れないのですから、それこそ今の若者達に「10年後はどうなると思うのか」という未来予想図を描かせるべきなのです。そこから立ち返って自分の会社は今どうすべきかと考える事、イノベーションが必要なのだと思います。最後に先の米朝会議ですが、日本での報道ぶりには辟易としてしまいます。そもそも何故米朝会談が始まったかという点、北朝鮮が自ら非核化を約束したからなのです。第1回目の会議後の共同声明では、「アメリカは北朝鮮の非核化の意思を再確認した」と書かれています。アメリカは未来に北朝鮮が非核化を実現すると宣言したので、バックキャストイングして、経済制裁の解除はまだしないが、様々な武力行使を含む強硬対応策の実施の可能性を封印すると応じたのです。一方的な武力行使も元々ないと私が断言しておりますが、日本人はいまだに宣戦布告すれば戦争が出来ると考えている方も多いと思いますが、それは70年前からもう出来ないのです。憲法第九条第一項には、世界の基準と同様に国連憲章の内容が書かれているだけで、自らの単なる宣戦布告による一方的な開戦はただの犯罪行為です。これは他の国も同一ですから、簡単に開戦も出来ないのです。アメリカは制裁のふりはしますが早く非核化を進めよと言っているに過ぎず、これが米朝首脳会談の枠組みであります。本日は大きく二つの事をお伝えしました。一つ目はフォロワーによるリコメンドーションによって組織を運営する重要性、二つ目はビジョンを考え、バックキャストイングして計画を作る重要性をお伝え致しました。ご清聴有難うございました。

事務局／東京都立川市曙町2-34-6 小杉ビル8階
【TEL】042-525-4046 【FAX】042-529-2666
【HP】 <http://www.tachikawa-rc.org/>
【E-mail】 ttrc8082@sepia.ocn.ne.jp

例会場／東京都立川市曙町2-40-15 パレスホテル立川
TEL：042-527-1111
例会日／金曜日 12：30点鐘
会長／清水淳一 幹事／平井洋孝 会報担当者／渡邊達也委員長